

◎サンフロンティア元3役員がベンチャー
―不動産金融事業を展開、ファンド組成も

オフィスビルの再生や賃貸仲介を展開するサンフロンティア不動産から3名の元役員が独立し、不動産ベンチャー企業「櫛ビロット」を創業した。不動産の購入・売却支援やバリュエーションアップコンサルティングなどのアドバイザリー業務、証券化アレンジ、アセットマネジメント(A.M)などの不動産金融事業に取り組んでいく。

新会社社長の宮内誠氏はオリックスの宮内義彦会長兼グループCEOの長男で、サンフロンティアに入社する以前は、三和銀行(現・三菱東京UFJ銀行)で不動産ノンリコースローンや、プロジェクトファイナンスを担当。系列の三和証券(現・三菱UFJ証券)出向後、都心部で大規模オフィスビルの証券化や商業ビルファンドの組成などを手掛けた。サンフロンティアには取締役投資企画部長として、約3年間在籍。

副社長は、サンフロンティアでともに常務だった長谷川進一氏と望月雅博氏。サンフロンティア時代からの業務分担を続け、宮内氏が証券化アレンジやAMなどの不動産金融事業、長谷川氏が富裕層向けの不動産アドバイザリー業務、望月氏がバリュエーションアップコンサルティングによるオフィスビル再生事業を行う。当面、富裕層や事業法人向けの不動産購入支援を展開するほか、1件当たり10億〜30億円規模の不動産流動化を狙って、不動産ファンドの組成を検討する。オフィスは、東京都港区麻布台。資本金は5000万円です。スタート。宮内社長は、「変化に敏感になることが大事。不動産マーケットは4月以降、予想を上回る変化で回復過程にある」とし、事業機会を伺っている。